

2025 年度 常磐大学 海外研修

報告書

— 韓国 —

大邱カトリック大学

2026 年 3 月 7 日 (土) ~ 3 月 14 日 (土)



2025年度海外研修（韓国）日程表

	日付		実施内容
1	3月7日(土)	午前	✈️ 12:45 成田国際空港発 ⇒ 15:05 釜山・金海国際空港着
		午後	🚌 専用バスにて移動（空港→ホテル→夕食会場→ホテル） 🍴 (夕食) ナッチポックム
2	3月8日(日)	終日	🚌 釜山市内踏査（専用バスで移動・ガイド付） 9:00 ホテル発 ・海東竜宮寺 ・釜山タワー ・チャガルチ市場 ・国際市場 ・甘川文化村散策 🍴 (昼食) デジクッパ (夕食) プルコギ 19:00 ホテル着
3	3月9日(月)	午前	🚌 12:00 チャーターバスにて大邱カトリック大学へ移動 🏠 14:00 大邱カトリック大学ゲストハウスチェックイン
		午後	16:30 日本語日本文学科学生との交流会（終了後：食事会）
4	3月10日(火)	終日	🚌 慶州（新羅古都）歴史踏査（専用バスで移動・ガイド付） 9:00 大邱カトリック大学出発 ・仏国寺 ・石窟庵 ・古墳公園 ・大陵苑、天馬塚 ・国立慶州博物館 🍴 (昼食) 石焼ビビンバ (夕食) サムギョプサル 19:00 大邱カトリック大学到着
5	3月11日(水)	午前	9:00～11:30 『韓国語授業』
		午後	13:00～14:30 正規授業参加『就業日本語特別講』 15:00～ 学内施設見学（聖堂・博物館）
6	3月12日(木)	午前	9:00～10:30 『韓国語授業』 11:00～12:30 正規授業参加『サービス日本語会話』
		午後	15:00～16:30 正規授業参加『日本語基礎Ⅰ』
7	3月13日(金)	終日	🚌 🏠 大邱市内文化施設見学 グループ別：大邱カトリック大学学生同行 👤
8	3月14日(土)	午前	🚗 チャーターバスにて大邱国際空港へ移動
		午後	✈️ 16:20 釜山・金海国際空港発 ⇒ 18:30 成田国際空港着

韓国研修報告書



常磐大学人間科学部心理学科 4年

私が海外研修に参加する最初のきっかけとなったのは、友人の誘いであった。私自身、中学時代に KPOP アイドルの影響で韓国に興味をもち、自分でハングル文字を勉強していた期間があった。そのころから韓国への関心は変わらず、大学生になり韓国語の講義があることを知り、全て履修した。大学生のうち一度は韓国に行ってみたく思っていたが、中々機会がなく、留学への興味もあったが実現することができなかった。そして4年生の9月頃、友人から韓国研修というプログラムがあることを伝えられた。初めは、「旅行で訪れた方が好きなことができるし、好きな場所へ行くことができる」と考えていたが、説明会の中で、旅行では味わうことが出来ない経験や友人ができることを聞き、研修への参加を決めた。私は研修の中で、日本の文化はどのようなところで取り入れられているのかという点に焦点を当てた。最近、日本で KPOP や韓国コスメが流行しているだけではなく、韓国において日本のドラマや音楽などが流行していることを SNS 等で見かけることが多いため興味をもった。

研修では、食文化に触れ、釜山、慶州、大邱の町を散策し、歴史的建造物や博物館を見学するなどした。また、大邱カトリック大学では、韓国の学生と交流をしながら授業を受けたり、放課後は学生と一緒に食事をしたり、買い物をするなどそれぞれ自由時間を楽しんだ。箸やスプーンの置き方などの細かな違いから、地形や参拝方法の違い、お店での接客の違いなど、一般的に韓国は日本といちばん近い国と言われているが、これほど異なる点があることを肌で感じ、驚いた。韓国の街中で、日本文化が取り入れられているのか観察したところ、ホビーショップ等には日本のアニメやキャラクターの商品やカプセルトイが並び、看板が日本語で書かれた飲食店を何件か見かけた。また、店内 BGM としてアニメの曲が流れている店舗やアニメが大好きだという学生もいて、日本のアニメ文化は韓国においても人気が強くなることを実感した。日本の化粧品については陳列されていた店もあったが、あまり種類は見られず、ポップやポスターによる顧客への見せ方の違いについても観察したが、日本と大きな違いは見られなかった。

街並みや歴史的建造物、食事など魅了されるものばかりであったが、私が最も感動したのは人との出会いである。大邱カトリック大学での研修を通して学生や先生との関わりが何よりも印象深いものであった。互いの文化に興味を持つ学生が集まり、言葉が通じないことがあっても知っている単語を並べ、ジェスチャーを使い、自分の言いたいことが伝わり、相手の言いたいことが理解できると嬉しかった。韓国の学生が日本語を熱心に勉強している姿や流暢に話す姿を見て、その努力に自分も奮起する面もあった。日本と韓国において、それぞれ流行しているものや、おすすめのもの、社会政策の違いについて話すことも楽しかった。交流があったほとんどの学生は自分よりも年下であったが、将来や社会への意識、自身の価値観をしっかりと持っており、驚かされることも多く、自分に足りないものを見直すきっかけとなった。自分は内向的な性格であり、主体的に新たなことに挑戦したり、取り組むことが苦手であるが、授業の中でソ・ヨンウン先生がおっしゃっていた「新しいことに挑戦することは視野を広げること」というお話が印象深かった。実際に韓

国研修に参加することを悩んだが、勇気を出して参加して良かったと心から思っている。きっかけは身をもって、新しい何かをやってみるということは、人とのつながりも増え、自分の成長に繋がる大切な機会なのだと学んだ。今回の韓国研修は、4月から社会人として生きていくため、成長するきっかけを与えてくれた良い刺激となり、私にとって一生忘れない一週間となった。学んだことを活かし、豊かな人生を送っていきたい。そして、またいつか韓国を訪れる日が来るのを楽しみに韓国語の勉強を継続していくつもりだ。

最後に、研修は非常に豊かなものであったが、4年生は単位にならないこと、GPAを2.5以上取得出来ていても奨励金が支給されないことは残念であったと考える。実際に私自身、単位にならないことや、奨励金がないことで参加を迷った面もあったが、受け入れ、参加をすることを決めた。海外研修に参加したい気持ちがあっても、4年生は単位に加算されないことや奨励金がないことを不平等に感じ、参加を諦めてしまう人もいるのではなか。自身の視野や考えが広がる貴重な経験ができる機会なので、待遇は平等にし、参加しやすい環境を整えるべきではないかと考える。

謝辞

本研修を実施するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。特に、引率および終始丁寧なご指導をいただきました崔 蘭英先生には、深く御礼申し上げます。さらに、現地において貴重な学びの機会と経験をご提供くださった大邱カトリック大学の皆さまにも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

海外研修報告書（韓国）



人間科学部心理学科 3年

1. はじめに

今回、韓国での海外研修に参加した理由は、K-POP やドラマなどが好きで韓国に興味を持っていたことや、韓国の大学生と交流してみたい、実際に行って様々な経験をしてみたいという思いがあったためです。また、海外に行ったことがなかったので、行きたいと思っていた韓国に行き、自分の目で韓国の生活や文化に触れるチャンスだと思い参加を決めました。初の海外でもあり、韓国語も読むことができる程度で話すことには自信がなかったので心配や不安が多くありましたが、それ以上に楽しみや期待の気持ちでいっぱいでした。研修では、韓国の学生とたくさん交流すること、韓国語を学ぶこと、文化について学ぶことを目標としました。

2. 研修の流れ

研修では、釜山・慶州・大邱を訪問し、各地を見学したほか、大邱カトリック大学で学生との交流、授業に参加しました。釜山では海東竜宮寺、釜山タワー、チャガルチ市場や国際市場、甘川文化村といった観光名所を訪れました。慶州は新羅の古都として有名であり、世界遺産にも登録されている仏国寺、石窟庵、天馬塚、国立慶州博物館を訪れ、展示されている国宝を目にすることができました。また、大邱ではグループごとに分かれて韓国の学生に市内を案内してもらいました。大学の授業では、韓国の学生が学んでいる日本語の授業に参加し、敬語について学習したりお互いに質問をしたりして交流を深めました。

3. 学んだこと・印象に残ったこと

今回の研修を通して特に印象に残ったことは、日本との違いを多くの場面で体感できたことです。まず、道路の違いです。韓国の横断歩道では信号が青の際に点滅し残り時間が表示される仕組みになっていました。また、日本では歩行者優先の意識が強いですが、韓国では車が優先される場面も多く、信号のない横断歩道を渡る際に戸惑うことがありました。

次に、観光地でよく見かけた亀の石像です。日本の神社やお寺などの場所にはキツネやイヌの形をした石像が多く見られるのに対し、今回訪れた場所では亀や龍の形をした石像が多く見られたと感じました。写真①は海東竜宮寺内の石像、写真②は仏国寺の建造物を示した写真です。これらのように、象徴的な動物が異なっている点も文化的な違いの一つであると思いました。



①海東竜宮寺内の亀の石像



②仏国寺の龍のデザイン

4. まとめ

今回の研修では、他にも数えきれないほど多くのことを学ぶことができました。また、韓国の学生はとても優しく、たくさんお話をすることができたので、最近韓国ではやっていることや方言といった様々なことを教えてくれました。今まで知らなかったことも知ることができたので、韓国のことがもっと好きになりました。韓国の学生は日本語がとても上手で、韓国語を使わなくてもコミュニケーションをとることができました。いろいろな会話をすることができてうれしい反面、もう少し韓国語で話すことに挑戦すればよかったなという反省点も見つかり、これから韓国語をもっと学んで韓国語で会話をしてみたいと思いました。1週間の研修は本当にあっという間で毎日楽しく、刺激的な時間を過ごすことができたため、この研修に参加して本当に良かったです。また、韓国の学生だけでなく、常磐大学の学生とも仲を深めることができました。研修を通して得られた貴重な経験を今後の学びや生活に生かしていきたいです。

韓国研修報告書



人間科学部心理学科 3 年

1. はじめに

私が今回、韓国での海外研修に参加したきっかけは、もともと韓国に興味があったからである。特に K-POP が好きで、日頃から韓国の文化に触れる機会が多く、実際に韓国を訪れてみたいという思いを持っていた。しかし、海外に行くことに対して不安もあり、海外研修の存在を知っていながらも、なかなか一步を踏み出すことができずにいた。そのような中で韓国語の授業を受講したことや説明会に参加したことをきっかけに、「大学生である今だからこそできる経験だ」と感じ、参加を決意した。

研修では、大学での交流を通して韓国の学生の考え方や学習スタイルを学ぶとともに、日本との違いを理解することで、自身の視野を広げることを目的とした。また、これまで学んできた韓国語で実際に会話することを個人的な目標とした。

2. 研修内容

今回の研修では、一週間を通して、釜山・慶州・大邱の3都市を訪れ、各地域の文化や特徴に触れた。

まず釜山では、釜山タワーや甘川文化村、海東竜宮寺、チャガルチ市場などを訪れた。多くの観光客や地元の人々が行き交う活気のある様子（チャガルチ市場や光復路ファッション通り）が印象的であった。市場や海東竜宮寺では、日本とは異なる味付けやスタイルに触れ、文化の違いを実感した。

慶州では、仏国寺や石窟庵、古墳公園、国立慶州博物館などを訪れた。歴史的な建造物や遺跡が多く残されており、韓国の長い歴史と伝統を感じる事ができた。

そして大邱では、大邱カトリック大学を訪問し、現地の学生との交流を行った。大学の施設の見学や授業に参加した。最終日には、大邱カトリック大学の学生と大邱市内を散策した。アーチェリーをしたり、ご飯を食べたり、デパートに行き、とても楽しい時間を過ごした。



韓国の学生たちとアーチェリーしている様子

3. 研修での気づき、学び

《文化の違い》

一週間の中で、一番多く感じたのは日本との文化の違いだった。

特に食事の仕方について、食器を持って食べることが良いとする日本とは違って、韓国では、食器を持たずに食べたり、お箸やスプーンは縦に並べて置いたりすることを実際に目の当たりにして新鮮だった。また、韓国では만찬（おかず）が無料でおかわりできたり、セルフサービスだったりするお店がほとんどであった。

さらに、干支は韓国にもあり、ほとんど日本と同じ動物で、順番も同じだが、日本ではいのししであるところが、韓国ではぶたであることを初めて知り、驚きだった。



←海東竜宮寺にある돼지띠（豚年）の像

また、韓国では、自分の意見をはっきりと伝える場面が多く見られ、積極的に自己表現を行う姿勢が印象的であった。一方で、日本では周囲との調和を重視する傾向があり、この違いに戸惑いを感じる場面もあった。しかし、異なる文化について学び理解していくことも国際交流をするにあたって大切なことなのだと思身をもって学ぶことができた。

《韓国の大学生活》

まず印象的だったのは大学の敷地面積の広さである。キャンパス内には電動キックボードが様々な場所に置かれており、それを利用して移動する学生を見て驚きだった。また、図書館を見学した際には、自習室が多く設置されており、学生が勉強している姿が多く見られた。このような様子から、韓国では学びに対する意識が高く、普段から積極的に学習に取り組んでいる学生が多いように感じた。

授業では、日本と同様にタブレットやパソコンを使用した授業が多かったが、授業内に行ったロールプレイの会話を録音して、課題としてメールで提出するなど、初めて見る課題のやり方で新鮮だった。

《積極的に話すことの大切さ》

私は、人見知りで韓国の学生と上手くコミュニケーションが取れるか不安が大きかった。しかし、交流会や参加した授業では韓国の学生が日本語で積極的に話してくれて、たくさんのお話をすることができた。もともと韓国語を聞く機会が多かったり、韓国語を勉強していたことで、先生や学生が韓国語で話していても、何を言っているのかある程度理解することはできたが、自分から韓国語で話すことがあまりできなかったのが悔しかった。また、ご飯を食べに行ったり歩いているときなど、様々な場所で韓国の方々から日本語で声をかけてくれることが多く、自分の国の言語を話してくれることがとても嬉しく、印象に残った。このような経験から、言葉に自信がなくても、勇気をもって伝えてみる、言葉にすることが大切なのだと改めて感じた。



日本語の授業に参加したときの様子

4. 終わりに

今回の経験を通して、一週間という短い期間だったが、実際に現地に行き、人々に関わることでしか得られない気づきが多くあった。特に異文化理解の重要性、自ら行動することの大切さを学んだ。他にも書ききれないほどの学びや気づきを得ることができ有意義な研修となった。また、現地の学生と交流してみて、日本語が上手な学生が多く私ももっと韓国語の勉強を頑張ろうという刺激をもらった。今後は、この経験を活かし、より広い視野をもって物事を捉え、考えるよう努めていきたい。また、自分自身も多様な価値観を理解できる人間へと成長していきたい。

韓国研修報告書

人間科学部心理学科1年

私が韓国研修に参加した動機は、実際に韓国に行き、自分の目で見て体験してみたいと思ったからです。また、私は以前から大学生のうちに海外研修や留学に行ってみたくて考えていました。しかし、韓国に行ったことがなく、韓国語も少ししかできないため、研修に参加しようか迷っていました。説明会を聞きに行った際に、韓国語ができなくても大丈夫だということを知りました。また、大学の見学や韓国の学生との交流など、研修内容もとても楽しそうだと感じ、今回の研修に参加することを決めました。日本とは違う文化や生活を実際に体験することで、自分の考え方や視野を広げたいという思いもありました。この研修を通して、韓国の大学の雰囲気や学生の生活、韓国の文化について学びたいと考えていました。

研修内容

研修では大学の見学や授業への参加、韓国の学生との交流など、様々な経験をすることができました。大学はとても広く、車やバイクが普通に走っていて、日本の大学よりも規模が大きいのと感じました。また、学生同士が仲良く話している様子を見て、大学の雰囲気が明るくてとても良いと感じました。特に驚いたことは、大学の中でデリバリーをしている人が多かったことです。日本では大学の中でデリバリーをしている人を見ることはあまりないので、とても驚きました。韓国ではデリバリー文化がとても発展していることを実際に見ることができ、韓国の日常生活を少し知ることができたと感じました。

研修で一番楽しかったことは、大邱市内の観光です。最初に地下鉄に乗って市内まで移動しました。電車の切符が日本と違って、コインのような形で可愛いと思いました。また、韓国の学生と一緒に行動をし、ご飯を食べたり買い物をしたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。私がずっと行ってみたいかったオリーブヤングにも行くことができ、嬉しかったです。日本で食べる韓国料理よりも韓国で実際に食べる料理はさらに美味しく感じました。

異文化について

韓国に実際に行ってみて、文化の違いもたくさん感じました。特に印象に残っているのは、食文化です。メイン料理のほかにおかずが無料でついてくることに驚きました。日本でもご飯がお替り無料などのお店はありますが、おかずが無料でついてくることはあまりないので、とても良い文化だと感じました。また、韓国では食器を机に置いたまま食べるのがマナーだと知り、日本との違いを感じました。

研修を通して学んだこと

この研修を通して、実際に自分の目で見ることの大切さを学びました。今では、海外に行かなくても海外の様子を SNS などで見ることができます。しかし、実際に現地へ行って体験してみないと分からないこともたくさんあると感じました。韓国に行ってみて、韓国ドラマや SNS などを見ているだけでは味わえない経験をすることができました。例えば、大学の雰囲気は想像していたよりも明るく、とても良いと感じました。また、街の雰囲気も日本とは少し違い、活気があり、賑わっていました。文化の違いを感じる場面もありましたが、それと同時に日本と似ている部分もあり、韓国という国が身近に感じました。今回の研修では、個人での旅行では知ることのできない、韓国の学生の生活や大学の環境についても知ることができ、とても貴重な体験になりました。

今回の韓国研修を通して、韓国についての理解が深まり、さらに韓国への関心が高まりました。実際に韓国へ行くことで、今まで知らなかった文化や生活について知ることができ、視野が広がったと感じました。今回韓国研修に参加して、韓国の大学の雰囲気や学生の様子を実際に見ることができ、留学してみたいという気持ちが強くなりました。そのためにも、これからさらに韓国語の勉強を頑張りたいと思っています。今回、韓国研修に参加して、本当に良かったと思いました。この研修で学んだことを、今後の大学生活や将来に生かしていきたいです。

海外研修報告書（韓国）

人間科学部コミュニケーション学科1年

1.はじめに

私が韓国研修に参加しようと思ったきっかけは、高校生の頃から夢中になって観ていた韓国ドラマの影響だ。私は、ドラマを通じて、作品の中で描かれている街並みやファッション、独特な言葉の響き、そして日本とは異なる食習慣といった韓国文化に対する興味関心が高まった。そこで、大学入学後は韓国語の基礎の授業を履修した。学習を進めるうちに、実際に韓国で現地の方々と交流してみたいという思いが強くなり、今回の研修への参加を決意した。今回の研修では、現地の学生の方への挨拶や自己紹介、買い物をすることを目標とした。

2.研修の内容

初日は、釜山で夕食にナッチポックムを食べ、ホテル周辺を散策した。二日目から本格的な研修が始まり、釜山タワーや海東龍宮寺、チャガルチ市場、甘川文化村などを訪れた。釜山の宿泊したホテル周辺の看板や建物に日本語を見かけることが多く、印象に残っている。また、日本語を話すことができる店員の方や日本人の観光客のような人も多く見かけた。ドラマで見たような活気あふれる市場や移動中のバスから眺める景色はどこを見ても新鮮に感じた。三日目からは、大邱カトリック大学に移動し、現地の学生との交流会や韓国語の授業、さらには正規授業にも参加した。慶州の歴史踏査では、仏国寺、石窟庵、古墳公園、国立慶州博物館などを訪問した。韓国語の授業で印象に残っているのは、干支だ。日本にも干支があるが、韓国では亥がイノシシではなく豚を指すことを知り、驚いた。日本語の会話の授業では、敬語についての内容で尊敬語と謙譲語の違いなど日本人の私にとっても難しいと感じた。慶州の歴史踏査では、ドラマの時代劇で出てくるような歴史的建造物に圧倒された。

3.韓国で学んだこと

韓国での食事

研修中の食事、私にとっては大きな学びの場となった。特に印象的だったのは、韓国ならではの食習慣である小皿料理の種類の多さだ。そして、ほとんどおかわりが自由で、メインの料理が運ばれてくる前に、テーブルを埋め尽くすほどのたくさんの料理が並べられた。また、韓国の食器や作法にも驚かされた。ドラマの食事シーンで見っていた、銀の食器を実際に手に取ると、想像以上に重みがあった。さらに、箸は断面が平らな形状をして



いたため、指先で安定させることが非常に難しかった。また、日本では箸を横向きに置くことが一般的だが、韓国では縦に置くことがマナーだった。他にも、日本では、食器を持って食事をするが、韓国では食器を持たずに食事をするなどお互いの文化の違いを実感した。

石焼ビビンバ

韓国での支払い

韓国で買い物をした際には、ほとんどカード決済をした。現金が使えるお店もあったが、有人レジで店員の方に直接対応してもらった。日本では、プリクラやカプセルトイでは小銭を用意する必要があるが、韓国ではカード決済のみの機械が多かった。これらから、韓国のキャッシュレス化が進んでいることを実感した。

韓国のコンビニ

コンビニでは、一つ買うと一つ無料、または二つ目が無料になるという日本では見かけないシステムに少し戸惑いつつもありがたいサービスだと感じた。サービス面だけでなく店内の陳列方法にも圧倒された。特に驚いたのは、高く積み重ねられたカップラーメン、ジュースやコーヒーが隙間なくぎっしりと並んでいるところだ。日本では、パッケージを一つひとつ見せることを重視していると感じたが、韓国では商品数を重視しているように思えた。

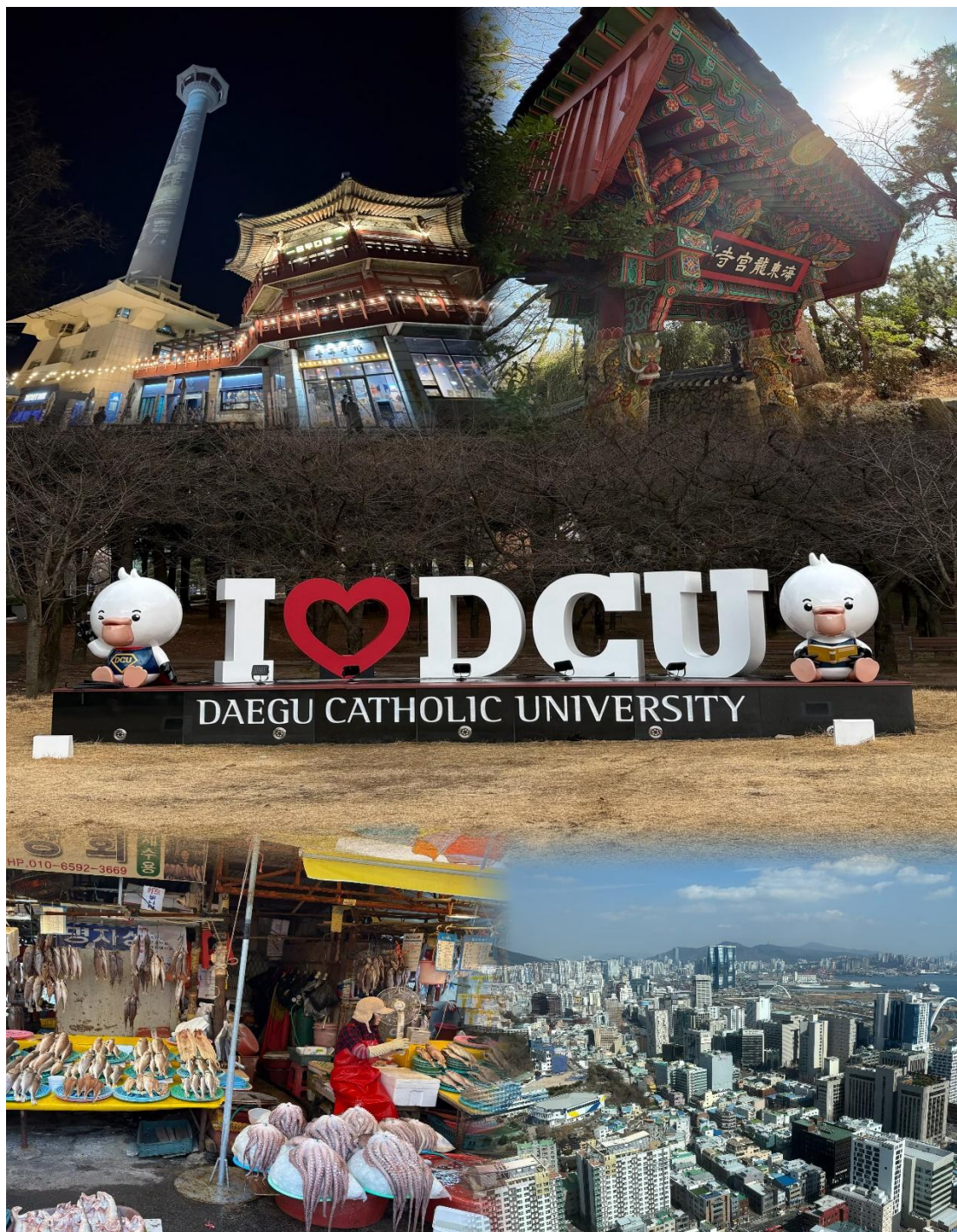


コンビニの陳列

4.まとめ

今回の韓国研修を振り返り、日本と韓国は距離も近く、日頃からドラマや SNS を通じて親しみを持っていたため、似ている国だと思っていた。しかし、実際に現地を訪れてみると画面越しでは伝わりづらい違いを多く発見することができた。また、現地の学生に買い物をサポートしてもらったり、一緒にご飯やカフェに行ったり、カラオケをするなどの貴重な経験や学びを得た研修になった。

2025 年海外研修報告書
初海外が広げてくれた私の世界
人間科学部 コミュニケーション学科 1 年



言語が変わると、人の見え方も変わるのだろうか。これが今回の韓国海外研修を通して私が思った一番大きな問いである。これまで私は海外に行った経験がなく、日本の外で生活する人々の価値観や言葉の使い方について深く考える機会があまりなかった。私は、パンパンくんの日常という韓国のアニメが大好きで、字幕なしでも動画を楽しみたいという思いで韓国語を学び始めてから、韓国の文化や人との関わり方に興味をもつようになり、実際の韓国ではどのように人々が生活し、どのような価値観をもっているのだろうと感じるが多々あった。このことが今回の海外研修に参加したきっかけである。私は将来、日本語教師の資格をとりたいたいと思っているため、特に言葉と人間関係の結びつきに関心を持っていた。日本語にも人間関係を表す言葉は数多く存在するが、その意味やニュアンスは文化によって大きく異なる可能性がある。韓国語を学ぶ中で、日本とは少し違う感覚の表現に出会うことがあり、それを実際の生活の中で感じてみたいと思った。初めての海外で不安と期待を抱きながら到着した時、街の雰囲気や言葉の響き、そして人々の距離感の近さなど、日本とは少し違う空気を感じた。この研修を通して、言葉だけでなく、その背景にある文化や価値観にも目を向けながら韓国社会の特徴を自分なりに理解したいという新しい目標ができた。

-小さな出会いから見えたもの-

今回の研修では、大学を訪問したり、韓国語の授業を受けたり、市場や観光地を見学したりするなど、様々な活動を行った。教室で韓国語を学ぶだけでなく、現地で韓国語を聞いたたり使ったりすることで、言葉が生活の中でどのように使われているのかを体感することができた。その中でも私が一番印象に残ったことは、DCUの学生との交流である。授業の中では、日本語と韓国語を交えながら会話をする機会があり、教科書だけではわからない言葉の使い方や文化の違いを知ることができた。実は人見知りというのもあって最初は緊張していたが、相手の学生たちはとてもフレンドリーで積極的に話しかけてくれたため、徐々に会話も自然にできるようになっていった。また、市場を訪れた時に店の人が明るく声をかけてくることに驚いた。日本では、店員と客の関係は比較的落ち着いた距離間であることが多いが、韓国ではより親しみのあるやり取りが見られた。こうした日常の小さな場面にも文化の違いが表れているなど実感した。このような経験を重ねる中で私は、言葉と文化の関係について改めて考えるようになった。そして、その考えを大きく変える出来事があった。それが、八方美人という言葉の受け取り方の違いである。

-同じ言葉、違う意味-

日本語で八方美人といえば、誰にでもいい顔をする人という意味で使われることが多く、どこか本心が見えない感じの否定的なニュアンスを含む場合が多い。そのため、日本ではあまり褒め言葉として使われることは少ない。しかし DCU の学生に話を聞くと、この言葉が必ずしも悪い意味ではなく、むしろたくさんの人と良い関係を築くことができる人として評価される場合もあるという。周囲と調和を保ちながら人間関係を広げることができる人

は、コミュニケーション能力が高い人として見られることもあると教えてもらった。この話を聞いたとき、私は同じ言葉でも文化によって意味の受け取られ方が大きく変わることに驚いた。言葉は単なるコミュニケーションの手段ではなく、その社会の価値観や人間関係の在り方を反映しているのではないかと感じた。日本では、一貫した態度や本音と建前のバランスが重視されることが多く、誰にでも同じように接する人に対しては少し警戒する文化があるのかもしれない。一方で韓国は、人との関係を広く築き、周囲と円滑に関係を保つことが一つの能力として評価される傾向があるのではないかと考えた。もちろん、この違いがすべての人に当てはまるわけではないが、言葉の意味の違いを知ること、その社会が大切にしている人間関係の在り方に触れられたのかなと感じた。この発見は、教室で韓国語を学ぶだけでは気づくことができず、実際に現地で人と交流したからこそ得られた学びだったと思う。

今回の海外研修は、私にとって初めて海外の文化に触れる経験であり、多くの発見と学びを得ることができた。釜山、慶州、大邱という異なる都市を訪れ、現地の学生や人々と交流する中で、韓国の雰囲気や人との距離感を実際に感じることもできた。特に、八方美人の意味の違いは、同じ表現であっても社会によって評価が変わる点で言葉と文化の関係についてさらに興味をかきたてるものとなった。韓国でたくさんの経験を通して、言語を学ぶことは単に言葉を覚えることではなく、その背景にある文化や価値観を理解することにつながるのだと実感した。

海外研修報告書（韓国）

～韓国での経験～

総合政策学部総合政策学科 1 年

はじめに

本研修に参加した動機は、韓国文化についてより深く理解したいと考えたためである。現在、私は国際交流会館という留学生と共同生活を行う寮に居住しており、日常的に異文化交流の機会に恵まれている。具体的には、食事や会話、散歩、さらには交流行事などを通じて、多様な文化背景を持つ人々と関わっている。

その中で多くの韓国人留学生と交流する機会を得て、言語、食文化、価値観などについて学ぶ中で韓国文化への関心が高まった。こうした背景から、実際に現地で文化を体験し、日本との相違点について理解を深めたいと考え、本研修への参加を決意した。

また、これまで韓国語 I・II を履修してきたことから、本研修では韓国語を用いた実践的なコミュニケーションを通じて、自身の語学力の向上を図ることも目的の一つであった。

どのような研修を行ったのか

韓国人留学生との交流を通じて、韓国社会や文化に関する多くの疑問が生じた。例えば、日本との街並みの違い、物価水準、大学施設の相違、日常生活における施設の利用状況、学生の余暇の過ごし方、日本に対する印象、カフェ文化の位置づけなどである。これらの問いを意識しながら研修に臨んだ。

現地到着初日は釜山市内のホテルにて休養を取り、実質的な研修は 2 日目から開始された。2 日目は釜山市内の観光を行い、海東龍宮寺、釜山タワー、チャガルチ市場、甘川文化村などを訪問した。3 日目以降は大邱カトリック大学へ移動し、慶州市内の歴史踏査および大学での授業参加を中心に活動した。歴史踏査では仏国寺、石窟庵、古墳公園、国立慶州博物館を訪問し、韓国の歴史や文化への理解を深めた。

大学では韓国語および日本語学科の正規授業に参加した。韓国語の授業では干支や食文化について学び、日本語学科の授業では現地学生とともに会話や敬語表現について学習した。さらに、初級から上級まで幅広いレベルの授業に参加する機会を得た。

最終日には現地学生とともに大邱市内を散策し、交流を深めた。

韓国と日本の違い

まず気候についてであるが、韓国は茨城と比較して気温が低く乾燥しており、全体的に肌寒く感じられた。滞在期間中は晴天の日が多く、降雨は 1 日のみであった。また、一部の研修生にくしゃみや鼻づまりといった症状が見られ、これは PM2.5 や黄砂の影響による可能性があると考えられる。

地形に関しては、韓国は国土の約70%が山地であるため、山の景観が多く見られた。特に釜山では坂道や階段が多く、甘川文化村では斜面を活用した住宅配置が特徴的であり、地域活性化の一例として興味深いと感じた。

街並みにおいては、高層建築が多く戸建住宅が少ない点が印象的であった。これは地震が少ないという自然条件も影響していると考えられる。また、カフェの数が非常に多く、日本と比較してもその存在感は大きい。日本ではカフェが静かな作業空間として利用されることが多いのに対し、韓国では会話を楽しむ場として利用される傾向が強く、店内は賑やかであった。これは、自宅よりも外で交流する文化や、カフェを社交の場として機能しているためであると考えられる。

商業施設については、日本では大型で平屋の店舗が多く、総合的な商品を取り扱う傾向がある。一方、韓国では店舗面積は比較的狭いものの、複数階にわたって展開され、商品分野ごとの専門性が明確であった。また、大型マートでは商品サイズが大きく、一人暮らしにはやや不便であると感じられた。

さらに、市場の活発さも印象的であった。日本では商店街や市場の衰退が指摘されているが、韓国では依然として活気を保っている。この背景には、大型店舗との役割分担が明確であることに加え、地域コミュニティとの結びつきが強く、対面でのやり取りが重視されているためであると考えられる。

交通面では右側通行であるため、バスの乗降位置などが日本と逆であり、戸惑う場面もあった。

人々の特徴としては、いわゆる「パリパリ文化」に象徴されるように、効率性や速度を重視する傾向が見られた。これは、急速な経済発展の過程において、限られた時間で成果を求められる社会的環境が影響していると考えられる。一方で、食事の際に料理を取り分けるなど、他者への配慮が自然に行われており、思いやりのある行動も多く観察された。

また、韓国の学生は日本に対して概ね好意的な印象を持っており、特にアニメやJ-POPへの関心が高いことが分かった。

大邱カトリック大学について

大邱カトリック大学は、かつて女子大学であった点において常磐大学と共通しており、興味深い特徴であると感じた。また、宗教教育が重視されており、関連する授業や教材の充実が見られた。



キャンパス内は広大であり、移動手段として車や電動スクーターが利用されていた。さらに、学生用ロッカーや飲食施設なども整備されており、学生生活を支える環境が充実していると感じた。

終わりに

本研修を通じて、韓国語でのコミュニケーションが成立した際には学習の成果を実感することができた。一方で、発音や口語表現、方言の理解に課題があることも認識し、今後の学習の必要性を強く感じた。

また、地理的に近い国であることから親近感を持っていたが、実際には想像以上に文化的差異が存在することを実感した。韓国の効率性と日本の丁寧さ、それぞれの長所を理解し、柔軟に取り入れていく姿勢が重要であると考えた。

今後は本研修で得た知識と経験を国際交流の場で活かしていきたい。異文化理解においては相手の文化を尊重する姿勢が不可欠であり、そのためには継続的な学習と多角的な視点が求められる。今後もこうした姿勢を維持し、より良い国際交流の実現に努めていきたい。



大邱市内で撮ったスターバックス



日本語の授業で作ったキーホルダー